

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人みわの会
施設名	MIWAたばた保育園
報告者（役職）	小橋 明日香（主任）
住所・連絡先	東京都北区田端 5-11-8
	☎ 03-5842-1409
	E-mail tabata@miwanokai.jp

○タイトル（保育計画）

子どもの心が豊かに育つ“アトリエ”

○主な助成備品

パーテーション、ちょこっとテーブル、おもちゃと道具の多様棚、コーナーラウンドチェスト左右、変化テーブル4枚セット、おもちゃと道具の整理棚B、クッションカーペット、ベビースクエアーマット、ミニトップ、幼児用3人掛けベンチ、パットペル、ギアパズル、ホワイトサイドバランスポード

1. 保育計画策定の目的

MIWAたばた保育園は、2020年4月に開園致しました。コロナ禍でのスタートとなりましたが、MIWAたばた保育園の歴史を2年重ね、日々の活動の様子が色づきはじめてきました。1階は0・1・2歳児のクラス、2階には3・4・5歳児のクラス、3階には屋上園庭があります。3階建ての構造ですが、2階にある“アトリエ”のスペースは様々な年齢の子どもたちが集う場となっています。しかし、広い空間に絵本コーナーがあるだけになってしまっていて、絵本を読みたくて見ている子ども途中で集中が途切れてしまっていたり、絵本を持ち歩き雑に扱っていたりする姿があったので、アトリエの環境の見直しを行い、アトリエを通じて、子どもたちの創造する世界を広げ、“やってみたい!!やりたい!!”から始まる遊びの充実を目的に、保育計画を策定いたしました。

2. 具体的な実施内容

①絵本コーナーの充実

アトリエコーナーのスタート時は、絵本コーナーに絵本棚があるだけでした。絵本を読む子どもたちは、途中で集中が途切れ、絵本の扱いも雑になってしまう場面がありました。そこで、コーナーラウンドチェスト左右やマットを敷くことで、落ち着いて絵本を読

めるような雰囲気づくりを行い、環境の充実を図りました。0・1・2歳児の子どもたちも遊びに来ることを考え、乳児の子どもたちの集中できる時間を考慮すると、絵本を読みたい子は絵本の世界を楽しみ、他にも興味がわいてくる子は積み木やパズル等を設置して楽しめるようにし、お互いに一人ひとりの時間を大切にできるように工夫しました。

②ごっこ遊びの充実

入口から入って、絵本コーナーとは反対の場所に、多様棚と変化テーブル、パーテーション、ベンチ、ジョイントマットを置き、ごっこ遊びができる空間作りを行いました。棚の中には、見立て遊びをしやすい色や形で作ったままごと用の具材や皿、コップ等を置きました。お店屋さんの雰囲気が出るようなパーテーションを置き、大きな布を置くことで、様々な事に代用でき、子どもたちがイメージしやすい環境となりました。乳児も遊びに来ることを考えると、誤飲につながるような細かなものは必要な時に出せるようにしました。そして、異年齢での関わりができるように、各クラスの保育者とアトリエの使い方の共有を行いました。

③美術(アート)を通して表現を楽しむ

絵の具やオイルパステル、筆や刷毛等の様々な道具を置ける棚を1台追加して設置しました。整理棚を置くことで、材料の充実が図られ、子どもたちの表現したい思いが実現できるようになりました。そして子どもたちのすぐ側にあるという面では、子どもたちと一緒に準備をすることができ、自然と期待感が生まれ、期待する中で自己表現を存分に楽しめるようになっていきました。

3. その成果と評価

アトリエに設置された絵本コーナーやごっこ遊びコーナー、美術のコーナーそれぞれが子どもたちの“やってみよう”に繋がっています。アトリエに入ると絵本コーナーとごっこ遊びコーナーがあるので、子ども自身が自分で選択して遊びを見つめます。絵本を読みたい子は絵本コーナーに行き、ごっこ遊びをしたい子はごっこ遊びコーナーへと行きます。乳児クラスの子どもたち組は、保育者と共に絵本コーナーに来ると、自分で絵本を選



び自分でめくって読む姿や、保育者に絵本を読んでもらい本の世界を楽しむ姿があります。今は、絵本を読まないと思った子は、側にあるパズルや積み木をして過ごしています。常に自分で選んで遊びを決めているので、絵本の世界を楽しみたい子が絵本を読んで楽しむ姿が増えてきています。

幼児クラスの子どもたちは、ベンチを利用して好きな本を2・3冊選んで読む子や絵を楽しむ子などそれぞれですが、一人ひとりが読みたい時に絵本の世界へ入っていくので集中している時間も自然と長くなっています。友だちと一緒に絵本を共有することも大切ですが、一人ひとりのイメージの世界を大切にする必要があるので、その時間を確保していけるように見守っています。

ごっこ遊びコーナーでは、幼児クラスや2歳児クラスが中心となり、自然とごっこ遊びが始まりました。具材をお皿に並べ、布を敷き、言葉のやりとりが始まります。「ちょっとお買い物いってくるね。」「行ってらっしゃい。」「おまたせいたしました。スパゲティです。」等、役になりきり表現することを楽しんでいます。その姿を見て、1歳児も真似て遊んだり、0歳児はよくお兄さんお姉さんの姿を見て学んだりしています。アトリエを通して自然と子どもたちの関わりが広がり、遊びが広がっています。



美術(アート)を通して表現を楽しむ姿としては、素材がそこにあるからこそ、子どもたちも自由に表現し、最初(準備)から最後(片付け)までを活動の一つとして楽しんでいます。一緒に準備することは、「期待感」一緒に片付けることは、気持ちの「終着点」と捉え、子どもたちのやりたい、やってみたいを一緒に行ったり、見守ったりしています。



以前は本を持ち歩くだけの遊びの姿があったのですが、その姿も減り、子どもたちが各々で好きな遊びを選び、楽しむ姿が増えてきています。

4. 今後の課題と展望

アトリエの環境が少しずつ整い、子どもたちの遊びに広がりが見られるようになってきました。同じ学年の子ども同士だけでなく、様々な年齢の子どもたちが関わる姿が増えてきています。今後は、子どもたち同士の関わる姿を見て、今の子どもたちの興味や関心が実現に向かうようにするため、今、どのような経験が必要かを吟味しながらそれらが満たされる環境を目指していきたいと思います。子どもたちが成長していく中での基礎となる乳児期・幼児期には、ごっこ遊びを通して、普段の生活で使わない言葉のやりとりも、盛

んに見られるので、言葉を使ったコミュニケーションの体験となるように見守り、子どもが人と関わる力を育てていくため、子ども自らが周囲の子どもや大人と関わっていくことができる環境作りを大切にしていきたいと思います。夢中で遊べるようになっていく力・心身の発達を助長し生きる力の基礎となるように、子どもの活動が豊かに展開されるよう環境を整えていきたいと思います。

以上